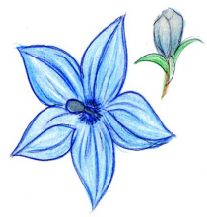
協働遠州

第1号
発行
東日本大震災支援
掛川市民の会
〒436-0342
掛川市上西郷
2530番地の6
090-7302-6329
info@shien-kake.org
www.shien-kake.org



3月11日16：30～19：30
3・11絆の集いを開催します
掛川駅前サンクン広場にて

今年もまた東日本大震災の日3・11がやってきます。

東日本大震災支援掛川市民の会では、今年も、3・11絆の集いを行ないます。

3月11日は平日（月曜日）であるため、震災発生時刻でなく、通学・通勤の方が多いと思われる16：30～19：30に行ないます。

場所は、「サンクン広場」（掛川駅南北自由通路「ほのぼのPASS」の北側を出たところ）です。

通り掛かった方は是非、少し足を止めて、演奏をお聞きいただき、また出来ましたら募金をお願い致します。尚、湯茶を無料でサービス致します。

通常の募金の他に、「分け合うパン」311円の販売も致します。1枚の食パンを4人で分け合って食べたという逸話に基づき、食パン1枚と草笛クッキー数枚をセットにしました。実費を差し引いた金額を、募金として扱わせて頂きます。311円を超える金額でお買い上げくだされば、勿論、超えた金額も募金として扱わせて頂きます。細かいお釣りが切れてしまうことも有り得ますが、その節は、311円を超える金額でお買い上げ頂ければ幸いと存じます。

公共の場所をお借りしますので、通行人の皆様には、大回りになったり致しましてご迷惑をお掛けすることもあるかと存じますが、主旨をご理解いただいて不便を凌いで頂きたく、お願い申し上げます。（鈴木）

15:00～16:00　吹奏楽（雨天中止）
掛川東高等学校吹奏学部

16:30～16:45　開会セレモニー
16:45～17:15　ポップス
森永エイジさん
17:15～17:45　ピアノ弾き語り
横山香代子さん
17:45～18:00　アナウンス
（募金の呼びかけ、
市民の会活動報告）
18:00～18:45　オカリナ演奏
明日（あした）への会と
オカリナの仲間たち
18:45～19:30　ジャズ
山田泰之とその仲間たち
19:30～　「花は咲く」斉唱

行ってきました
第六回被災地支援バス報告
11月9日晩～11月12日朝

11月9日（金）
20時、掛川市役所に集合、出発式の後、支援先に向け出発。

11月10日（土）
8時過ぎ、岩手県陸前高田市気仙・長部地区漁村センター到着。

日中、ガレキA班、B班は陸前高田災害VCとのマッチングの後、陸前高田市米崎地区の個人宅にて津波での全壊住宅更地での除草作業。手芸班、お茶班は長部地区漁村センターにて、長部小学校校庭の仮設住宅居住者などを対象にソフト事業を展開。

夕刻、広田半島の黒崎仙郷温泉での入浴と夕食。

宿泊は長部地区漁村センター。

11月11日（日）
午前、海岸清掃班は長部地区漁港周辺の清掃作業、個人宅依頼作業、いも汁班はいも汁、麦めし、鮭やカキなどのおつゆなど、昼食の下ごしらえ。

11～13時、長部小学校校庭の仮設住宅居住者などを対象に、いも汁昼食にご招待。

12時半～、ツアー参加者によるミニライブ。磐田市を中心に音楽活動を展開している齋木竜也氏によるオリジナル楽曲などを、いも汁昼食の参加者に披露。

13時頃～、漁村センター内および周辺の清掃作業。

14～16時、陸前高田市観光物産協会の語り部、大坂俊也氏のご案内で、市内被災個所の見学。

16時、帰着の途へ。途中一関市内で入浴と夕食。

11月12日（月）
朝6時、掛川市役所到着、解散。

参加者21名（男17名、女4名）（最高齢67歳～最年少22歳　20代1名、30代3名、40代1名、50代3名、60代13名、平均年齢55歳）

掛川市民の会では継続的に陸前高田市を中心に支援活動を展開してきています。その中で、ガレキ処理などについては陸前高田市の災害ボランティアセンター（災害VC）を通して被災者からのニーズとのマッチングによる活動を実施してきました。

しかし陸前高田市災害VCは、被災者からのニーズの件数減や冬に向かってのボランティア数の減少などの事情で、12月を持って閉鎖されることになりました。災害VCの閉鎖は、一方では被災者の生活がひと段落ついて来たことの証しともいえますが、現実的にはまだまだ多くの仮設住宅生活者の方々が困っておられます。掛川市民の会としては今まで培ってきた現地の方々とのつながりをベースに、被災地の方々が元の生活を取り戻されるまで今後も継続的に活動していく決意です。

8月のツアーでは、観光協会の語り部の方と一緒に市内の被災施設を回りツアー参加者に好評でしたが、今回も市内のツアーを行いました。前にお話をうかがってショックを受けた市民体育館や中央公民館が、今回ガレキ作業に出掛けた日にちょうど解体され、姿形がなくなってしまう日に遭遇しました。また前日には、市役所で解体に向けてのセレモニーが行われたそうで、刻一刻と被災当時の姿が失われて行っています。

被災地で暮らされている人たちにとっては元通りの生活に少しでも戻って行くことが復興ということなのでしょう。でもあまりにも大きな災害であったがために、そう短い期間で復興が成し遂げられるわけはありません。

それでも何回か訪れるたびに現地の方々に笑顔が増え、私たちとの会話も多くなってきていると、参加者の方々からの感想が寄せられました。それとともに、自分たちが見聞きしたことを自分の周りの人に伝えて行きたいとか、より多くの人に現地を訪れて欲しいというご意見も多く寄せられました。（佐藤）

第六回被災地支援ボランティア活動に参加して
安藤ミエ

紅葉もそろそろ終わりの11月、掛川市民の会のボランティア活動（支援バス）に参加させて頂きました。

新聞を見て何回か電話しましたが、六回目でやっと参加することが出来ました。いざ申し込みはしたものの、自分の体調とか、家族の協力は、費用は、と幾つか心配もありました。

出発の日、市役所に行ってみると、知ってる人が見えたりして少し気が楽になりました。諸注意のあと出発式を行ない、バスに乗り込みました。同じ目的を持って集まった人たちらしい和やかな雰囲気があり、ほっとしました。

現地に着いて朝食の後、各班に分かれて作業説明がありました。私は手芸班でしたので、準備してきた布を並べて地元の人たちに分けました。作るのはペットボトル入れの袋です。年齢も色々でしたけど、女性らしい賑やかな会話で始まりました。来る前は少し心配していましたけど、東北らしい訛りも私には懐かしく、来てよかったと思いました。

その翌日は、掛川いも汁の昼食サービスです。いも汁班の男性参加者が大変こだわった作り方を して頂き、プロ並みでした。東北の人たちは、いも汁は初めてだった様です。鯖味としいたけ味でしたけど、皆さん両方おいしく食べてくださいました。

今回、私は、被災地にボランティア活動に行ってきましたけど、実際に集団で生活していくのはこういうことなんだと、学んだことの方が沢山ありました。一つ目は、この掛川市民の会の計画のすばらしいこと。二つ目は、自分が現地に行くことは出来ないけどパンを届けてくださった人がいたこと。三つ目は、男性の方で普段は家でやらない様な作業も何の苦もなくやっていたこと。感心しました。四つ目は、地元の人たちも、煮物・漬物・その他のものを持ってきたりと、優しい気持ちがあること。五つ目は、今回一緒に行った人たちがそれぞれお互いを気づかっている優しさが見えたこと。

みんなの善意が自然に働いていたのかなあ、とても意義のある四日間でした。

どうもありがとうございました。

今度は東北・平泉の歴史を知りたくなりました。また行くことがあったら寄ってみたいです。

頑張ってます
地元商店マイヤ

掛川の皆様には、支援活動中よく弊社で販売している商品をお買い求めいただき御礼申し上げます。

弊社の代表は、発災前より従業員教育の中で、津波災害の対応を話しておりました。

「地震が来たら、商品や売上金のことよりも、お客様の安全確保のため誘導を最優先に」は社員一同の合言葉になっております。

またわたくし共の店舗は、沿岸部に近いところが多く、今回の震災で多大な被害を受けましたが、市民の皆様に、いちはやく日用品をお届けするため、本来業務であり【地域一番の小売業】の自覚の元、店舗再開の速度をはやめ、より多くの皆様に使用していただけるよう努めてまいりました。

わたくし自身も気仙町出身であり、県内外の支援者の皆様、そして陸前高田市市民の皆様と一緒に被災前よりも住みやすい街づくりを目指してまいります。

引き続き掛川の皆様にも、陸前高田市の復興にご支援いただきますよう、お願いいたします。

株式会社マイヤ
滝の里店店長
小野田謙

「お客様の安全が最優先」小野田謙店長

ボランティアセンター閉所に伴い

陸前高田でＰ＠ＣＴ発足

新たなボランティア受け入れ組織

地元陸前高田で発足したＰ＠ＣＴ代表の伊藤です。今年1月より、私どもの団体でボランティアの方々の受入を行う「陸前高田市復興サポートステーション」を運営しています。来ていただいた方々に瓦礫撤去作業、漁業の支援活動、引っ越しの手伝いなど市内から挙がるニーズに対応して活動してもらっています。

昨年12月にこれまでボランティアの受入を行ってきた陸前高田市災害ボランティアセンター（以下ＶＣ）が閉所となりました。依然としてボランティアの方々の力は必要とされている現状の中で陸前高田を訪れるきっかけを絶やしたくないという思いで、「陸前高田を好きになる窓口」としてサポートステーションを立ち上げました。私たちが震災で唯一得たもの、それは「人との繋がり」です。ＶＣにはこれまでに12万人を超える方々が訪れ、そこでの交流、繋がりをきっかけとしてさまざまな支援活動を行うことができました。我々はこの「繋がり」をきっかけとして、陸前高田の復興、またその先のまちづくりに寄与していきたいと考えています。

支援活動を通して様々な交流、きっかけが生まれることを願って、みなさんと陸前高田でお会いできる日を楽しみにしています。また来られないという方でも3・11の震災、被災地のことを忘れず、関心を寄せていただければ幸いです。

特定非営利活動法人パクト（通称Ｐ＠ＣＴ）
連絡先　0192-47-4977
陸前高田市復興サポートステーションＨＰ
http://rt-station311.org
団体ＨＰ　http://www.pact311.org

陸前高田の社協より

今までのご協力に感謝致します

被災直後から、全国のボランティアの皆様のご支援に感謝申し上げます。

陸前高田市の社会福祉協議会は、津波により建物や幹部職員を失い、支援活動に働く人材や機材も少なくゼロからの出発と言って良いほどの現状でした。

加えて市内中心部にある金融機関も被害を受け、活動資金や給与を引き出すのも、山間部の被害を受けなかった所まで行くような有様でした。

その中で多くの支援者の皆様にご協力いただきボランティアセンターを運営させていただくことができました。

復興の進捗もあり、平成24年12月23日をもちまして陸前高田市災害ボランティアセンターは閉所されましたが、被災直後より閉所日まで支援頂いた、延べ１２万９４６９人のボランティアの皆様に御礼申し上げますとともに、今後は社会福祉法人として本来業務を行いつつ、陸前高田市の復興活動に取り組んでまいりますので、引き続きご支援をお願いいたします。

陸前高田市
社会福祉協議会
元災害ボランティアセンター担当
萩原　史

「ならここの湯」にて

がんばっぺし　陸高！

被災地産の手芸品を販売

陸高の一本松が大津波にも必死で地面にしがみ付き生き延びたように、復興復旧が遅々として進まない東北の地で頑張っておられる人々を励ましそうと、掛川市民の会の支援バスも回を重ねてきました。

縁あって陸前高田市気仙町の長部地区のコミュニティセンターを拠点に支援活動を続けていくうちに、顔馴染みも出来ました。

その中の数人からの、「仮設で何もすることがなくてねー」という一言から、手芸講座を開くことを思いつきました。それまで手芸に縁のなかった会員が伝手を頼り、手芸が趣味の方やキルト講師の方々に教えを乞い、「お地蔵様」「ひな人形」「アクリルブラシ」等を俄仕込みで特訓しました。大勢の協力者により材料となる古い着物や帯が集められました。

8月の支援バスで長部地区のコミュニティセンターには沢山の人々が訪れ、掛川茶の接待もそこそこに、来訪者は「難しいねー」と言いながら、アクリルブラシや人形作りに取り組みました。以前の訪問よりも大きな声の、話し笑い声がセンターに響き渡りました。

11月の支援バスには手芸の先生の方も参加され、前回よりももっと多くの来訪者が長部地区コミュニティセンターに集まりました。夜はストーブが必要になり始めたその日は、「来年の節句には流されてしまったおひな様の代わりに孫に作りたい」と、多くの方が昼食も忘れて、夢中で作りました。ついには、持参したおひな様の材料が不足する程でした。

こうした活動を続けていく中で、「被災地の方々を勇気づけるにはどうしたら良いだろうか」と考えた会員たちは、手芸作品を掛川で販売することは出来ないかと考え始めました。そこで、手芸を通じて集まってくれた方々の中から有志に集まって頂き、「グループたんぽぽ」を結成しました。洋裁などが得意な方や編み物が得意な方を中心に、アクリルブラシや根付けやストラップ、畳の縁で作ったバッグ、ブローチ等が、出来上がりました。

2月7日、掛川市居尻地区の日帰り温泉「ならここの湯」の売店に於いて、グループたんぽぽの手芸品が販売開始されました。

販売の目的は、東北から離れた静岡県の地では、震災のことが、ややもすると忘れられつつあることに、会員たちは危惧し、震災に負けないで頑張ってる方々を少しでも勇気づけ、エールを送り、支援の輪を広げ継続して行けたらということです。（縣）

アルミ缶回収事業について

被災地支援のため、募金や津波被害にあった写真洗浄作業など、掛川の地に居ながらにしてできる支援活動を、被災地支援バス運行と合わせ行ってまいりました。

その活動の中の1つに、アルミ空き缶回収事業があります。

被災地復興は長期的になることが予想され、それを支えていただく、支援者の皆様の負担を軽減し、長期かつ安定した支援基金調達を目的に始めた活動です。

アルミ缶回収等で集められた材から、再生地金をつくるエネルギーは、原料のボーキサイトから新しい地金を作るときの３％しかかかりません。

アルミの地金を作るには大量の電力が必要とされます。アルミ地金が【電気の缶詰】と呼ばれる要因ですが、再生地金では原料から加工することに比べ97％のエネルギーが節約できると言われています。

私たちの行うアルミ缶回収事業は、被災地支援を行うことを主眼に、自分たちの生活習慣を再度見直すことも目的の１つとしております。

以前から活動の趣旨に協賛している旧掛川地区・大東地区の７箇所の回収場所に加え、３月７日には大須賀支所東館前駐車場に回収ＢＯＸを置かせていただきました。

また今年4月の三熊野神社祭礼では、町内の皆様が祭礼中の回収事業に協力していただけることとなりました。

多くの皆様に協力していただき、当会の被災地支援活動が続けられています。（齋藤）

いも汁

山芋（自然薯や手芋など）を卵と熱い「つゆ」で延ばしながら良く掻ったもの。つゆには、澄まし汁または味噌汁が使われる（家によって違う）。麦飯に掛けて食べる。「とろろ汁」とも。（鈴木）

震災にそなえて

監事　村田高良

東日本大震災から二年が経過しましたが、未だに仮設住宅や遠く離れた土地での生活に苦しんでいる多くの人たちがいます。

出来るだけ早い国家としての支援をして頂きたいと願っています。

人間の力では災害を防ぐことは出来ません。地震、雷、台風、火山活動、集中豪雨、暴風雪など常に世界中で被害が起こっています。急速に温暖化が進み北極や南極の氷山が減少し、動植物の生態系のバランスが変化して絶滅の恐れのある種もあり憂慮されます。

静岡県は東海地震がいつ起こってもおかしくないと言われてから30年以上経ちますが、発生が遅くなっただけエネルギーが蓄積され被害が心配されます。

もし地震が発生すれば、かなりの規模が予想されます。

編集後記

Microsoft Office Wordさえ、ろくに使えない私が、まさか「新聞」づくりをすることになるとは、思いませんでした。決して読み易いとは言えない紙面ですが、内容は充実しておりますので、最後までお読み頂ければ幸いです。（鈴木）

●焼きたて新鮮●
掛川アンデルセン
連雀店　22-7682
西町店　22-3903

佐野医院
泌尿器科・内科
院長　佐野克行
日曜（午前中）診療しています。
sano clinic
掛川市長谷1-12-9
☎ 0537-61-1155

ご予約・商品のお取り寄せ等ご相談下さい
包装・熨斗の対応も致します
かご盛等もご注文受付中
お酒の専門店
ドリーム掛川店
営業時間am10:00～pm20:00
年中無休
ご注文お問い合わせは↓こちらまで
フリーダイヤル 0120-62-0321
FAX 0537-22-0293
〒436-0043 掛川市大池2998-1
本社：ビバレッジファーム㈱
量売り焼酎も人気です！
麦焼酎・芋焼酎・米焼酎
泡盛・黒糖焼酎・梅酒…
いろいろお試し下さい
オリジナルラベルの作成も出来ます
主な取扱商品
日本酒／関運・一ノ蔵・浦霞・若竹
焼　酎／島桐・の馬・紋粋・風・瑞泉

中部運輸局認証工場
自動車鈑金塗装専門
有限会社
リフレッシュプラザ やまざき
取締役社長　山崎　勝
〒436-0043
静岡県掛川市大池2798-8
TEL(0537)23-3165(代)
FAX(0537)23-3166

持ち込みOK!!　新聞・カタログ・雑誌・ダンボール
『家庭古紙』大歓迎
◆夜10時までOK。
◆回収ボックスは年中無休です。お気軽にどうぞ。
リサイクル古紙センター
㈱ 勝又商店
掛川市大池698-1
☎(0537)24-1192(代)　FAX(0537)24-1193

東日本大震災支援
掛川市民の会を応援します。
www.slowlife.info
NPO法人
スローライフ掛川
〒436-0079 掛川市掛川1200-1
竹の丸管理事務所内
Tel・Fax 0537-22-2112
e-mail takenomaru@slowlife.info